CIS系太陽電池の水分解水素生成 光カソードへの応用

石塚尚吾1、岡本陸2、池田茂2 1産業技術総合研究所省エネルギー研究部門、2甲南大学

研究の目的

CuGaSe₂(CGS)、禁制帯幅1.7 eVのCIS系材料 CuGaSe₂(CGS)は、1.7 eVの禁制帯幅を有しタンデム太陽電池の トップセル材料として有望であるが、同時に水分解水素生成光カソード 用材料としても注目されている。これまでのカルコゲナイド系光カソー ドでは、Cu(ln,Ga)Se₂系で3.7%^[1]、Cu₂ZnSnS₄系で3.2%^[2]のSTH

実験

アプローチ

1. CuGaSe₂太陽電池の銅欠乏p-n ヘテロ接合界面とデバイス特性の 相関性検証



三元系CuGaSe₂薄膜の作製^[3]

・用いたCIS系薄膜:CuGaSe₂(三段階蒸着法CGS) ・表面銅欠乏層(CDL)厚を変化させた4種のCGS薄膜 試料を作製(type A, B, C, and D)



(solar to hydrogen)効率が報告されていた。

CGSの銅欠乏層に着目

CIS系太陽電池において、銅欠乏相で形成される層(Cu-deficient) layer, CDL)の役割解明は重要な研究課題である。今回、三元系 CGSデバイスにおけるCDLの役割や性能への影響を検証し、また、 光カソード材料としての可能性を検証した。

CCC: Cu _x CC	000	000	000	J ·
Мо	Мо	Мо	Мо	Դ 1 µm
SLG	SLG	SLG	SLG	
第二段階で 製膜終了	通常の 三段階法	B + CDL 50 nm	B + CDL 200 nm	SLG: ソーダライム ۱ ガラス基板

CGS type	CDL (nm)	$[Cu]/[Ga] (V_{acc} \approx 5 \text{ kV})$	$[\mathrm{Cu}]/[\mathrm{Ga}]$ ($V_{\mathrm{acc}} \approx 15 \ \mathrm{kV}$)		
A	0	1.1	1.1		
В	Ref	0.64	0.92		
С	50	0.43	0.83		
D	200	0.29	0.54		
	V	 V _{acc} : EPMA組成分析で用いた加速電圧			

|結果1. CuGaSe2太陽電池の銅欠乏p-nヘテロ接合界面の影響検証^[3] CDL厚とCdS厚の変化による太陽電池 SEM & SIMS EBIC パラメータの変化 ZnQ:Al/i-ZnO/CdS ZnO:Al/i-ZnO/CdS デバイス構造 i-ZnO/ZnO:Al CGS CdS CGS Mo CDL Secondary ion intensity (cps) CGS type Cu CGS CDL 薄い (~0 nm) **EBIC** line profile Мо CGS type [Cu]/[Ga] [Cu]/[Ga] SLG Cu 0.9 ⊤1 < ⇐:⇒ < 1 0.75 1< ⇐:⇒ < セル面積0.52 cm² Line-scan position ---- C CDL 厚い (~200 nm) --- D € 0.7 >[°] 0.6 CGS type D Na ^ຕິ ສີ່ 10²⁰ Na 0.5 0.55 (sd) 10 0.50 0.4 entration (D С CuGaSe₂¹⁰⁰ 1023 ←Ga intensity 10 **∓**Cu ⊢Zn **∓**= Se 10 conce 1²) CDL 10²¹ 12 .0 10³ 11 10²⁰ ′ Κ \mathbf{x} full full







・CDLは基板から拡散したアルカリ金属を蓄積(B,C,D) ・CDLの無い試料type Aは表面にアルカリを蓄えられない ・軽い(小さい)Na、次いで重い(大きい)Kが表面に(D)

CDL/CGS界面付近にEBIC信号のピーク ⇒ Buried p-n junction(埋込型p-n接合)はCDLに 由来し、CDLがn型層としての役割を担うことを示唆

10

CDL厚増加でV_{oc}が減少するCulnSe₂系^[4,5] と異なり、CGSではCDL厚増加でVocが増加

J-V、EQE、ダイオードパラメータの変化



CulnSe,系とは異なるCuGaSe,系のCDL厚とVocの相関は、 CdS/CDL/CGS界面ΔE_cの差異によるキャリア再結合抑制効果 のためと考えられる[3]

結果2. 光電気化学水分解特性の検証^[6]





CGS系光カソードによる水分解水素生成でHC-STH効率6.6%を達成^[6]



・CulnSeっと異なり、CuGaSeっではp-nへテロ接合界面の銅 欠乏層(CDL)を厚くすることで、太陽電池の開放電圧を向 上させる効果が得られた。

・三元系CuGaSeっを基本とする光カソードにおいて、CDLと CdSバッファ層の膜厚制御により、同系材料によるHC-STH効率として世界最高レベルとなる6.6%達成や、0.9 V の高いonset potentialを得ることに成功した。

謝辞

本研究は、三菱財団自然科学研究助成(No.20190001)、および、JSPS 科研費(19K05282、19H02822、20H05120)の支援によって実施されまし た。また、ゼロエミッション国際共同研究センター人工光合成研究チームの 三石雄悟主任研究員に有意義なご議論感謝いたします。

参考文献

[1] H. Kobayashi *et al.*, Energy Environ. Sci. **11**, 3003 (2018). [2] D. Huang et al., Energy Environ. Sci. 14, 1480 (2021). [3] S. Ishizuka, Appl. Phys. Lett. **118**, 133901 (2021). [4] B. Namnuan *et al.*, J. Alloy Compd. **800**, 305 (2019). [5] S. Ji et al., Jpn. J. Appl. Phys. 59, 041003 (2020). [6] S. Ikeda *et al.*, Appl. Phys. Lett. **119**, 083902 (2021).

